

saveMLAK ニュースレター

第 68 号

有志が集まって実施されてきた全国の図書館動向調査について、子安さんが執筆された記事が『としょかん』2020年8月1月号に掲載されました。本稿について、出版者である「としょかん文庫・友の会」より転載のご許可をいただきました。

COVID-19 と図書館

saveMLAK の図書館動向調査に参加して

saveMLAK COVID-19libdata チーム 子安伸枝

2020年2月頃から、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のための外出自粛や休業が要請されました。

図書館でも、学校の休校が決まった3月上旬頃から臨時休館し始めました。このCOVID-19流行期に、図書館がどのように対応したのか全国調査したプロジェクトチームがあります。そのチームの一人として、調査の概要を私なりの視点で紹介します。

saveMLAK とは？

saveMLAK の MLAK は Museum（美術館・博物館）、Library（図書館）、Archive（公文書館）、K（公民館）の略です。2011年の東日本大震災時に始まりました。災害で被災した MLAK 機関の情報を集約し、saveMLAK のウェブサイトで公開しています。被災状況だけでなく、災害時に MLAK 機関が行った対応や、資料の修復等の支援情報などもまとめています。今回の新型コロナウイルス感染症も一つの災害と言えます。saveMLAK は有志の集まりで、プロジェクトリーダーはいますが、固定されたメンバーが活動するのではなく、関わりたいと思った人が参加するスタイルです。そのプロジェクトの一つと

して「COVID-19 の影響による図書館の動向調査」（以下、「動向調査」）も立ち上がりました。動向調査の参加者は SNS やウェブサイトを通じて公募されていたので、私もその告知を見て参加しました。

調査の概要

動向調査は2020年4/16から6/20までの7回行いました。この動向調査が始まる前、4/7に(株)カーリルが全国調査を行っており、その調査と比較できるように、調査手法や枠組みはカーリルの調査を準用しています。また、調査の回数もカーリルの調査を第1回とし、続く saveMLAK の動向調査を2~8回と数えています。

調査は各自治体の図書館のウェブサイトを確認し、(1)開館か休館か、(2)休館期間、(3)休館中のサービスや開館時の制限などを調べました。調査で確認したウェブサイトのページはインターネット・アーカイブに保存し、元のウェブページが消えても確認できるようにしました。

日本の市町村数は1724、プラス都道府県47という膨大な数の図書館や公民館図書室等の読書施設のウェブサイトを見ていきます。調査には各回26~39人が参加し、2、3日のうちに調査結果がまとまりました。参加者は全国に散らばっているため、オンラインミーティングツール等を活用して、会わなくても一緒に作業できる、簡単に情報交換ができるようにしました。また、調査結果を広く知らせるためにプレスリリースを必ず作りしました。調査データは調査や分析のため自由に使えるよう、CC0（シーシーゼロ：著作権を主張せず、自由利用可能にするライセンス表示）で公開しています。

なお、動向調査は量的な結果が中心ですが、saveMLAK のウェブサイトの「COVID-19 対応のベストプラクティス共有」では MLAK 機関の取り組みを紹介しています。

調査結果

図書館の休館率の推移は劇的でした。4/16に57%だった休館率が、感染者の増加や緊急事態宣言の拡大を受けて5/6には92%まで上昇しています。先の見えない状況の中、休館を繰り返し延長する図書館も多くみられました。ゴールデンウィーク後に緊急事態宣言が解除され始めると、図書館は開館し始め、6/20には休館率は1.6%になりました。



図書館が休館したことで、紙の資料を利用する手段が著しく制限されていました。図書館は休館しても、予約資料の受取だけは実施するという館、また、郵便や宅配で利用者に資料を届けるサービスを始める図書館もありました。電子書籍やデジタルアーカイブなどのリソースの活用を呼び掛ける図書館、読み聞かせやわらべうた・紙芝居の動画を配信する図書館もありました。

5/6以降は徐々に開館する図書館が増えていきましたが、感染防止のために閲覧席や検索用端末の利用、新聞・雑誌の閲覧などを制限する館が多く見られました。3密を避けるため、利用時間を制限する図書館もありました。マスクの着用、手洗いや消毒の呼びかけなどをする図書館も増えました。資料からの感染を防ぐため、返却された資料を消毒液で拭いたり、数日置いておく図書館も見受けられます（資料を介してCOVID-19に感染するかどうかは、今のところ明らかではありません）。各図書館はCOVID-19に感染しない・感染拡大させないための取り組みを手探りで試行錯誤している状態です。

その取り組みの中で特に気になったのは入館記録を取っている図書館等があることです。入館記録を取る図書館は4/16の調査時点から数館ですが、見られました。クラスター感染が図書館等で起きた時の対策だろうと思いますが、図書館の利用事実はプライバシーに当たり、軽々に収集すべき情報ではないと思います。しかし、5/14に日本図書館協会から「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」が出され、「来館者名簿の作成」が提起されていたことから、入館記録を取る図書館は明らかに増えました（5/14：32館→5/21：93館→6/6：289館→6/20：345館）。各図書館の運営判断に、ガイドラインの記述が影響しているのは明らかです。徹底した消毒を行い、3密を避けながらもなお入館記録を取らなければいけないのでしょうか？

COVID-19は私たちの日常生活を翻弄しましたが、感染症に対処するために必要な情報は図書館の資料の中にもあるはずで。科学的に感染症に向き合うために、まず図書館資料を図書館員自身が使う必要があるでしょう。そしてより効果的で負担の少ない対策を取るために、つねにサービスについて自問自答する姿勢が必要だと感じました。



参考

saveMLAK <https://savemlak.jp/>

カーリル「COVID-19：多くの図書館が閉館しています」

<https://blog.calil.jp/2020/04/stay-at-home.html>

(こやす のぶえ)

*初出

「としょかん」2020年8月1日号、p14-15、出版者としょかん文庫・友の会

saveMLAK 会計 2021年1月期会計報告

収入	
グッズ売上	¥3,500
寄付	¥18,683

2021年1月末現在残高 ¥1,046,620

【糸野泰輔／saveMLAK ファンド係】

2021年1月～2月の出来事と今後の予定

- 1月18日
第118回 Meetup を開催
- 2月22日
第119回 Meetup を開催
- 3月22日
第120回 Meetup を開催予定
- 6月28日
年次報告会をオンライン開催予定



東日本大震災から 10 年

今月で東日本大震災の発災から 10 年となります。そして、この 10 年間、saveMLAK の活動も続いてきました。この機に寄せられた saveMLAK メンバーの方々からメッセージを掲載します。

これからもゆっくり一步一步、MLAK くと歩いていきたいです。

渡辺ゆきの (kumori)

2021 年 2 月に東日本大震災の余震がありました。2011 年の時と似た揺れに、テレビが転げ落ちてこないように押さえた状態で揺れをやり過ごしました。2011 年は実家の戸袋を押さえていたことを思い出して、10 年経ってもあまり変わっていない自分に気がつきました。

揺れが収まったら、外に出られる格好に着替えて、布団のそばに靴を用意して眠りました。これは 3.11 の時に身につけたこと。10 年のささやかな変化を感じました。人間はいろいろ忘れてしまうので、劇的な変化というのは、そんなにないんだろうと思います。でも、記録に残っていることで、忘れても自分の行動を変えていくこともできる。

covid-19 に翻弄されつつも、改めて記録の大切さを噛み締める 2021 年です。未来の人に向けて、これからも記録し続ける取組みをしていきたいなと思います。

地衣類司書・子安伸枝

saveMLAK に参加しはじめたのは、東日本大震災から 1 年ほど後でした。

小学生の頃に阪神・淡路大震災に出遭い、東日本大震災の時には行動を起こせる年齢になっており、何かできる場を探していて saveMLAK に出会った記憶があります。2012 年から神戸大学附属図書館

で震災文庫に関わりを持つようになったことも関係していると思います。

10 年経ち、この頃はあまり活動に参加できていないのですが、2 月 13 日に福島県沖で発生した余震をみて、東日本大震災への気持ちを新たにしようという思いがしています。

少しずつ、自分のできる範囲で災害への支援を続けていきたいです。

小村愛美

2011 年 3 月 12 日に岡本真さんが saveLibrary を立ち上げたとき、一緒にやろうと声をかけあい、「助けられるばかりのエル・ライブラリーだけれど、今度は少しでも助ける立場に」との思いから、第 1 回の緊急 meetUP を当館で開催しました。それが 3 月 20 日のことで、前日の緊急の呼びかけにも拘わらず 11 名が参集しました。

以来、4 月には saveMLAK へと統合されたこのネットワークにおいて、わたしはファンド係（会計係）を担当しています。糸野泰輔さんと赤塚昌俊さんと 3 人で長らく会計の仕事を分担してきましたが、残念ながら赤塚さんは 2019 年 1 月に逝去されました。

10 年間続けてきた毎月の会合（meetup）への出席率の高さでいえば、江草由佳さんと不肖わたくしが双壁と思います。欠席したのはたぶん 3 回だけのはず。

助け合い、支えあう社会が理想だとわたしは考えているので、東日本大震災をきっかけに「とにかくできることをやろう」という思いでこの活動に入りました。以後、人々の震災復興への関心が薄れてきたのはやむを得ないとは思いますが、災害は常に起きます。平常時からネットワークを維持し、記録を積み重ねていく地道な活動が次の災害の時に必ず役立ちます。

鈴木光さんのご尽力で「saveMLAK メソッド」という防災訓練プログラムも生み出され、岡本真さんたちを始めとするファシリテーターも活躍し、何度



かエル・ライブラリーでも実践的な訓練を実施しました。

思い返せばあっという間の10年でした。そして今年また、福島県で震災が起きています。毎年のように起きる水害や震災からMLAKを守ることに、減災のための備えをすること、そのための広報や情報提供というタスクこそ、わたしたち情報専門職の役目ではないでしょうか。

これからも微力ながらこの活動を続けていきたいと考えています。

そして世代交代も！

10年間、会計を担当してきて、大勢の方からのご厚志をいつも感謝の念とともに受け止めてきました。

10年に及ぶ会計業務とその記録を残し続けてくれた糸野さんにも心からの感謝を。

すべての仲間、そして今も災害と闘う人々とともにありたいと願っています。

谷合佳代子

東日本大震災から10年経って感じることは、震災直後に気付いたこととおそらく変わらないように思います。すなわち、日常生活の中でみなが大事と認識していないものを、大災害が発生したから早く復興させよう、と急にあがいても無理だということです。MLAKは果たして、私たちの人生にとってどれほど必要で、大事なもののなか？このことを日頃から訴え続け、共感する人を増やしていく努力を止めてはなりません。コロナ禍の今こそ、そんな努力を怠らない方々と手を携え、できることを少しずつ続けていきたいです。

神代浩（元文部科学省社会教育課長）

編集後記

本号が東日本大地震からちょうど10年を経過するタイミングでの発行となりました。被災状況や支援情報の集約・整理から始まった活動ですが、その後、東日本大地震に止まらない自然災害における情報も取り扱うようになってきました。そして、転載させていただきました、子安さんの報告にありますように、全国の図書館動向調査に携わる活動も生まれています。

現在、少しsaveMLAKの活動から距離があいてしまっている方も、ぜひこの機会にsaveMLAKウェブサイトアクセスしていただき、今、どのような活動をしているのかご覧いただけますと嬉しいです。

【あこたかゆき：編集担当】

編集発行：saveMLAK プロジェクト
発行日：2021年3月7日（日）（第68号）
発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル
さくらWORKS<関内>407
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail：pr@savemlak.jp
URL：<https://savemlak.jp/>

